早速

画

面

第六章 あってはならないこと

「考えられないような事件が . 多い」

コ 口 ナ 関 連 ば カコ りじ Þ な

田 中 が 画 面 \mathcal{O} Щ 本 に首 をか ľ げ

たとえば 朝 から酒を飲んでトラックを運転して登校中の児童たちを巻き込んで電信柱 にぶ

か って田ん ぼ に落ちたという事件

路をトラックが走っている。 にその事件そのものの映像が流れる。ふらふらと蛇行しながら片側一車 この不思議なテレビは事故現場ではなく事故そのものの映像を披 線 の直線道

露できる。

何 な れ が |度か いってい 立っているところの歩道は狭くなって相対できない。 て足下に気をつけて歩かなければ田 白 V 線が 事故も起こっている札付きの道路だった。しかし、 る。もちろん少学校も親も市や県にガードレールの設置や道路の改造を嘆願 引かれた道路の外側を児童が一列に並んで歩いている。ガードレールはない んぼに落ちることもある。そんな劣悪な道路が しかも道路の外側は 死亡事故はなかった。 田 んぼ で舗 通学路に ・し電柱 装が 崩

が あちらこちらでする。 そして終止符を打つような電信柱にぶつ カュ るトラック (D) 衝 突音が

映像が消える。

つい

にその瞬

間

が訪れる。

無残にも十数人の児童がひかれたりなぎ倒されたりし

て短

・悲鳴

田中も大家も目を背ける。

「ほかにも考えられないような事件、事故はあります」

田中がつぶやく。

「あってはならないこと」

「そうです。あるはずがないこと」

「でも、いくらでもあるのじゃ。情けない」

余りにも凄惨な映像だったので山本は画面を変更する。

「『あってはならないことが起こる』のは 『あって欲しいものがない』からです」

住宅地を通り抜けるような狭い道、もちろん両方通行などできないから一方通行だが自動

車

は かな りのスピードで走行する。 山本 . О 声が聞こえてくる。

道は 主要道 路の いわゆる裏道で地元 の人たちの生活用道路である。 もちろん 通学路でも

行止 ある。 めに っても Ļ 歩 1 道 V ような欠陥 は な い。 歩道を確 道 路 であ 保すると自動車 が走りにくくなるからだ。 層のこと通

我慢できなくなった大家が口を挟む。

市 役 所 カュ 警察 に 陳 情 すべ き」

歩行者専用

道にすればい

7

のじゃ。

いずれ大事故が起こるぞ」

田 中 も大家 に 賛 同 す

時 期学校 側 t 動 き出 したのですが、 歩道どころか 自動 車 0 通 行止 めを望 む 声 は あ ŋ ません

 $\frac{1}{2}$

でした」

誰 か が 反 対 した?」

「そうです。 住民 が 反対 したの です。 自 動 車 が 通れなくなると困 る のです。 歩道 を 作 る لح 狭 <

て主要道路まででるの に時間が かかるのです。 道路を拡幅案も出ましたが道路 0 両 側 0 住民が

猛反対しました」

田 中 と大家がため息をつく。

「子供に

しわ寄せが行くだけじゃ。子供だけじゃない。

老人もじや」

<u>\frac{1}{12}</u> 派 な道路 を作る割 には歩道 のな い道が多い なあ。 そういえば大都市でも一歩入れば歩道が

ある道 なん か ほとんどない。 L カ も自 動 車が道ばたに駐車 していて歩きにく

宅配 って歩 田 0 道 車 0 が 両 言う都 なけ が 駐 車 n 市 ば L 部 たり自分の家の玄関先に駐車する人もい 両 の幹線道 方通 行)路 ŧ 可 か 能だが、都会だから自動 ら入った住宅地 の道 路 0 車 映 0 . る。 像 通 に変わ 行量 自転車 は一 る。 も駐輪している。 日を通じて結構多い 道路 幅 は あ る程度あ

実際 日 本は歩道がない道路が多い。 0 写 真 が 映 し出される。 そして諸外 幅 の広い幹線道路ですら歩道がないところもあります」 玉 ... の 眏 像 E 変わ る。

「わあ、狭いのに両側にちゃんと歩道がある」

「そうです。 これ は \exists 1 口 ツ パ 0) あ る国

+ -数秒経 つと国名と都市 名が 右上に示された写真が次々とスライドシ 日 ーのごとく登場す

る。

*

「**『**あったらいいのに**』** 田 中 がテレ ビの中 の山本に尋ねるまでもなく頷くと急に山本の表情が厳しくなる。 を地道に実践すれば『あってはならないこと』 が減 っていくことか」

「そうじゃないの。言い直すわ」

田 [中は自分の考えのどこかに誤りがあったのではと今度は首をひねる。

当然の権利として。つまらない政策を実行しようとしたら、 「『あったらいいのに』じゃないの。『あるべきものは絶対に手に入れなけ こっちにくれと取りにい ればならない』 か なけれ の。

ばならないの」

ここで山本が新総理に密着取材する映像に変わる。

置してください」 総理。 たくさんの子供が死亡したのですよ。 すぐに道路を整備して歩道やガードレー ルを設

時間で十分か し 0 か りではなく絶対にしてください。 も知 れません。 総理得意のスピード感をしっかり発揮して今すぐやってください」 豊臣秀吉は一夜で城を作りました。 歩道だったら一

関係省庁に指示してしっかりと対策します」

あってはならないことです。

この迫力に総理は黙ったまま。

「反対ですか? できないのですか?」

「しっかりと受け止めました」

歩道ができていなけ

れば総

理は嘘

つきだと触れて回ります」

明

日

の 朝、

田

[中が総理に迫る山本をまぶしく見つめる。

「『あってはならない』という意味、よく分かりました。 『絶対』ということなんだ」

大家が頷く。

- 75 -

第六章 あってはならないこと